

# Admina ブラウザ拡張機能

セットアップガイド (Windows)

2026年3月



# 目次

第1章 概要	4
本資料の目的	4
対象読者	4
前提条件	4
免責事項	4
第2章 技術解説	5
2.1 レジストリ構成の全体像	5
2.2 Admina 拡張機能に渡せるパラメーター	7
2.3 Q&A・注意事項	8
第3章 設定手順（GPO / スクリプト配布）	10
3.1 Admina 管理画面からのパラメーター取得	10
3.2 スクリプトの準備	10
3.3 配布	11
3.3-A GPO による配布	11
GPO の設定	11
3.3-B MDM による配布	11
第4章 想定結果・動作確認	12
4.1 インストールスクリプトの出力確認	12
4.2 チェックスクリプトによる確認	13
4.3 ブラウザ上での拡張機能表示確認	14
4.4 パラメーター受け渡しの確認	14
Chrome の場合（chrome://policy）	14
Edge の場合（Diag データ）	14
第5章 疎通確認・データ確認	16
5.1 疎通確認	16
5.2 不通の場合の調査	16
5.3 ネットワーク調査	17

## 第1章 概要

### 本資料の目的

本資料は、Admina ブラウザ拡張機能を Windows 環境に展開するためのセットアップガイドです。Active Directory の GPO（グループポリシー）またはMDMを利用した一括配布と、手動でのローカルインストールの両方をカバーします。

### 対象読者

IT管理者（Active Directory / Entra ID 管理者）、情報システム部門の担当者を想定しています。

### 前提条件

- Windows 端末（Windows 10 以降）
- Google Chrome または Microsoft Edge がインストール済み
- GPO配布の場合：Active Directory ドメイン環境、GPO 管理権限
- MDM配布の場合：対象MDMの管理権限
- 拡張機能ダウンロードのための通信経路が確保されていること
  - Chrome：clients2.google.com への HTTPS 通信
  - Edge：edge.microsoft.com への HTTPS 通信

### 免責事項

GPO / MDM の設定は各社の環境により大きく異なります。本資料に記載する配布手順は参考情報としてご利用ください。拡張機能自体の動作は検証済みですが、配布設定が既存のポリシーや環境に影響を与えないことを保証するものではありません。実施前に検証環境でのテストを推奨します。

## 第2章 技術解説

### 2.1 レジストリ構成の全体像

本セットアップでは、Chrome と Edge それぞれに対して「拡張機能の強制インストール設定」と「拡張機能へのパラメーター配布」の2種類のレジストリキーを登録します。

(この値はご紹介のスクリプトにて一括登録が可能です)

#### Chrome の場合：

```

HKLM
├── Software
│   ├── Policies
│   │   ├── Google
│   │   │   ├── Chrome
│   │   │   │   ├── ExtensionSettings
│   │   │   │   │   ├── bdeanmdeckegmfjpbngomallcedjold
│   │   │   │   │   │   ├── installation_mode = "force_installed"
│   │   │   │   │   │   └── update_url = "https://clients2.google.com/service/update2/crx"
│   │   │   │   ├── 3rdparty
│   │   │   │   │   ├── extensions
│   │   │   │   │   │   ├── bdeanmdeckegmfjpbngomallcedjold
│   │   │   │   │   │   │   ├── policy
│   │   │   │   │   │   │   │   ├── ApiKey
│   │   │   │   │   │   │   │   ├── CreatedDate
│   │   │   │   │   │   │   │   ├── OrganizationID
│   │   │   │   │   │   │   │   ├── UserEmail
│   │   │   │   │   │   │   └── UserPc

```

#### Edge の場合：

```

HKLM
├── Software
│   ├── Policies
│   │   ├── Microsoft
│   │   │   ├── Edge
│   │   │   │   ├── ExtensionSettings
│   │   │   │   │   ├── flggmhlpicopffjfkpgkoljghfkmfcg
│   │   │   │   │   │   ├── installation_mode = "force_installed"
│   │   │   │   │   │   └── update_url = "https://edge.microsoft.com/extensionwebstorebase/v1/crx"
│   │   │   │   ├── 3rdparty
│   │   │   │   │   ├── extensions
│   │   │   │   │   │   ├── flggmhlpicopffjfkpgkoljghfkmfcg
│   │   │   │   │   │   │   ├── policy
│   │   │   │   │   │   │   │   ├── ApiKey
│   │   │   │   │   │   │   └── CreatedDate

```

└─ OrganizationID  
└─ userEmail  
└─ UserPc

### HKCU と HKLM について：

本資料では HKLM (HKEY\_LOCAL\_MACHINE) の使用を推奨します。理由は2つあります。

まず、本セットアップで使用するレジストリパスはすべて Software\Policies 配下です。このパスはグループポリシー制御用の特殊な領域であり、HKCU であっても一般ユーザー権限では書き込みができません。つまり HKCU/HKLM のいずれを選んでも管理者権限が必要です。

次に、管理者権限を持たないユーザーが Run as Administrator で一時的に昇格してスクリプトを実行する場合、HKCU を選ぶと Administrator ユーザーのレジストリハイブに書き込まれ、対象ユーザーには設定が反映されません。HKLM であれば端末全体に適用されるため、この問題を回避できます。

対象ユーザー自身がローカル管理者権限を持っている場合に限り、HKCU も利用可能です。

### UserEmail の動的設定について：

共用パソコンをご利用中の場合、上記の権限制約から、UserEmail のようにユーザーごとに異なる動的パラメーターは、レジストリに直接値を書き込むのではなく、ユーザー環境変数を經由して渡します。具体的には、ログオンスクリプト等でユーザー環境変数 USEREMAIL を設定し、レジストリ側では %USEREMAIL% を参照する形をとります。こうすることで、HKLM のレジストリ値は全ユーザー共通の %USEREMAIL% のまま、実際の値はユーザーごとに解決されます。

ユーザーが管理権限を持たない場合ログインスクリプトでレジストリを設定することが出来ないため、ベース設定は管理者が、Emailだけはユーザーのログオンスクリプトで動的設定が可能です。

### ExtensionSettings と 3rdparty\policy の役割：

ExtensionSettings キーはブラウザに対して「この拡張機能を強制的にインストールせよ」と指示する制御層です。一方、3rdparty\policy キーはインストールされた拡張機能に対して設定パラメーターを渡す通信層です。両方が揃って初めて、拡張機能が正しい設定で自動インストールされます。

## 2.2 Admina 拡張機能に渡せるパラメーター

パラメーター	種別	説明
ApiKey	固定値	Admina 管理画面から取得する API キー
CreatedDate	固定値	ポリシー作成日時 (ISO 8601 形式)
OrganizationID	固定値	Admina の組織 ID
UserEmail	動的	ユーザーのメールアドレス。スクリプトで設定
UserPc	動的	ユーザーの端末ホスト名。スクリプトで設定

固定値の3項目 (ApiKey, CreatedDate, OrganizationID) は Admina 管理画面の「設定 > 組織 > ブラウザ拡張機能 > ポリシー」から取得します。全端末で共通の値です。

UserEmail は配布スクリプトが以下の優先順でメールアドレスを自動判定します。whoami /upn (Entra ID 環境で UPN を取得) が最優先で、取得できない場合は USERNAME@DomainPart にフォールバックし、さらに COMPUTERNAME、HOSTNAME、LOGONSERVER の順に試行します。

UserPc は COMPUTERNAME 環境変数から取得し、未定義の場合は hostname コマンド → HOSTNAME → LOGONSERVER の順でフォールバックします。

## 2.3 Q&A・注意事項

### Q. HKCU と HKLM どちらを使うべきか？

HKLM を推奨します。Software\Policies 配下はいずれも管理者権限が必要であり、HKCU に権限上の優位性はありません。さらに、Run as Administrator で昇格実行した場合に HKCU だと Administrator のハイブに書き込まれてしまうリスクがあります。対象ユーザー自身がローカル管理者権限を持っている場合に限り HKCU も選択可能です。

### Q. Chrome と Edge で拡張機能IDが異なるのはなぜ？

Chrome Web Store と Microsoft Edge Add-ons はそれぞれ独立したストアであり、同じ拡張機能でも異なるIDが割り当てられます。Chrome は bdeanmdeckegmfjpbnnngomallcedjold、Edge は flggmhlpipcopffjfkpgkoljghfkmfcg です。配布スクリプトは両方に対応しています。

### Q. whoami /upn が使えない環境ではどうなる？

オンプレミス AD のみの環境など UPN が取得できない場合は、自動的に USERNAME@DomainPart にフォールバックします。スクリプト冒頭の DomainPart 変数に正しいドメイン名を設定しておく必要があります。

なお、環境の都合で正しいメールアドレスを組み立てられない場合でも、ここで設定される Email を Admina のディレクトリ上でセカンダリアドレスとして指定すれば、ユーザーとのマッチングが可能になります。

### Q. レジストリ設定後にブラウザの再起動は必要か？

必須ではありません。Chrome / Edge はバックグラウンドで定期的にポリシー設定を再読み込みするため、一定時間経過後に自動反映されます。ただし再読み込みの間隔は一定ではないため、即時反映したい場合は以下の手順でポリシーをリロードしてください。

- Chrome : アドレスバーに chrome://policy を入力 → 「ポリシーを再読み込み」 ボタンをクリック
- Edge : アドレスバーに edge://policy を入力 → 「ポリシーを再読み込み」 ボタンをクリック

### Q. 拡張機能をアンインストールするには？

以下のレジストリキーを削除してください。

#### Chrome の場合：

- HKLM\Software\Policies\Google\Chrome\ExtensionSettings\bdeanmdeckegmfjpbnnngomallcedjold
- HKLM\Software\Policies\Google\Chrome\3rdparty\extensions\bdeanmdeckegmfjpbnnngomallcedjold

**Edge の場合：**

- HKLM\Software\Policies\Microsoft\Edge\ExtensionSettings\flggmhlpicopffjfkpgkoljghfkmfcg
- HKLM\Software\Policies\Microsoft\Edge\3rdparty\extensions\flggmhlpicopffjfkpgkoljghfkmfcg

ブラウザが次回ポリシーを再読み込みしたタイミング、またはブラウザ再起動時に拡張機能が削除されます。即時反映したい場合は `chrome://policy` または `edge://policy` からリロードしてください。

**Q. すでにインストール済みの端末に再度配布した場合はどうなる？**

レジストリ値が上書きされるだけで、拡張機能の二重インストールなどは発生しません。パラメーターの更新が必要な場合（UserEmail の変更など）にも、同じスクリプトを再実行すれば安全に上書き反映されます。

**Q. 手動実行（ローカルインストール）の方法は？**

配布スクリプトを端末上で直接実行する方法です。Software\Policies 配下への書き込みとなるため、いずれの場合も管理者権限が必要です。

対象ユーザー自身がローカル管理者権限を持っている場合は、RegRoot を HKCU または HKLM のどちらに設定しても実行可能です。bat ファイルを右クリック → 「管理者として実行」で実行してください。

ローカル管理者権限を持っていないユーザーが Run as Administrator で昇格実行する場合は、RegRoot を HKLM に設定してください。HKCU だと Administrator ユーザーのレジストリハイブに書き込まれ、対象ユーザーには反映されません。

## 第3章 設定手順（GPO / スクリプト配布）

### 3.1 Admina 管理画面からのパラメーター取得

スクリプトに設定する固定値（ApiKey, CreatedDate, OrganizationID）を Admina 管理画面から取得します。

- Admina にログイン
- 「設定 > 組織 > ブラウザ拡張機能 > 拡張機能のポリシー」を生成またはコピーする
- クリップボードに保存された値をテキストエディタなどに貼り付け、ApiKey、CreatedDate、OrganizationID の値を控える

#### ブラウザ拡張機能

ブラウザ拡張機能は従業員のブラウザからアクティビティデータを集め、自動的に有効な情報を引き出します。この拡張機能を設定するために下記の情報が必要です。

拡張機能ID	Chrome版	bdeanmdeckegmfjpbngomallcedjold	コピー
	Edge版	flggmhlpipcopffjfkpgkoljghfkmfcg	コピー

拡張機能のポリシー    作成日 2022/10/04    **コピー**    削除

### 3.2 スクリプトの準備

配布スクリプト edge\_chrome\_extension.bat の冒頭にある定数部を環境に合わせて編集します。

変数	設定内容	例
DomainPart	メールアドレスの @ 以降	example.com
ApiKey	3.1 で取得した値	(Admina管理画面から)
CreatedDate	3.1 で取得した値	2025-12-11T00:00:00Z
OrganizationID	3.1 で取得した値	(Admina管理画面から)
RegRoot	HKLM を推奨（詳細は第2章参照）	HKLM

## 3.3 配布

### 3.3-A GPO による配布

#### スクリプトの配置：

編集済みの bat ファイルを SYSVOL の scripts フォルダに配置します。  
(これは一例としてADサーバー利用時に使えるシステムボリュームを使う例です)

#### 配置先の例：

```
\\<DOMAIN>\SYSVOL\<DOMAIN>\scripts\admina\edge_chrome_extension.bat
```

### GPO の設定

以下の手順で GPO を構成します。

- グループポリシー管理コンソール (GPMC) を開く
- 対象の OU に適用する GPO を作成 (または既存 GPO を編集)
- 「**ユーザーの構成 > ポリシー > Windows の設定 > スクリプト (ログオン/ログオフ) > ログオン**」を開く
- 「追加」をクリックし、SYSVOL に配置したスクリプトのパスを指定
- GPO を対象 OU にリンク

配布対象のユーザーが次回ログオンした際にスクリプトが実行され、レジストリが設定されます。ブラウザが次回ポリシーを読み込んだタイミングで拡張機能がインストールされます。

GPO 設定の詳細は以下の参考資料を参照してください：

[WindowsにGPOで配布する手順 - Admina Support](#)

### 3.3-B MDM による配布

MDM (Intune 等) を使用して配布する場合は、各 MDM 製品のスクリプト配布機能またはレジストリ配布機能を使用して、第2章で解説したレジストリキーと値を配布してください。具体的には以下のいずれかの方法で実装できます。

- **スクリプト配布**：MDM のスクリプト実行機能で `edge_chrome_extension.bat` を配布・実行する
- **レジストリ配布**：MDM のレジストリ管理機能で、2.1 のレジストリツリーに記載のキーと値を直接配布する

具体的な設定手順はご利用の MDM 製品のドキュメントを参照し、各社の環境に合わせて実装してください。

## 第4章 想定結果・動作確認

### 4.1 インストールスクリプトの出力確認

インストールスクリプト (`edge_chrome_extension.bat`) は実行中に各ステップの結果を表示します。正常終了した場合、以下のような出力が得られます。(手動で実行した場合)

```
=====
Edge + Chrome Extension Initializer
=====
Registry root: HKLM (HKEY_LOCAL_MACHINE)

[1] Generating userEmail ...
whoami /upn failed, using USERNAME.
UserEmail = user@example.com

[2] Reading hostname for UserPc ...
Got from COMPUTERNAME
UserPc = DESKTOP-ABC1234

[3] Writing Chrome ExtensionSettings and policy (HKLM)...
The operation completed successfully.
Chrome extension and policy applied.

[4] Writing Edge ExtensionSettings and policy (HKLM)...
The operation completed successfully.
Edge extension and policy applied.

[5] Registry values written:
...(レジストリ値一覧が表示されます)...

=====
FINISHED
=====
UserEmail = user@example.com
```

UserPc = DESKTOP-ABC1234

[1] から [5] の各ステップでエラーが表示されていないことを確認してください。特に [5] のレジストリ値一覧で、各パラメーターの値が意図したものと一致していることを確認します。

## 4.2 チェックスクリプトによる確認

レジストリの設定状況を確認するための読み取り専用スクリプト

(`check_extension_registry.bat`) が用意されています。このスクリプトはレジストリへの書き込みは行わず、HKCU と HKLM の両方をスキャンして結果を表示します。

(手動で実行した場合)

正常に設定されている場合の出力例：

```
=====
Extension Registry Checker (read-only)
=====

-----
HKLM (HKEY_LOCAL_MACHINE)
-----

[Chrome ExtensionSettings]
[OK] installation_mode = force_installed
[OK] update_url      = https://clients2.google.com/.../crx

[Chrome 3rdparty Policy]
[OK] ApiKey = xxxx...xxxx
[OK] CreatedDate = 2025-12-11T00:00:00Z
[OK] OrganizationID = <YOUR_ORG_ID>
[OK] UserEmail = user@example.com
[OK] UserPc = DESKTOP-ABC1234

[Edge ExtensionSettings]
[OK] installation_mode = force_installed
[OK] update_url      = https://edge.microsoft.com/.../crx

[Edge 3rdparty Policy]
[OK] ApiKey = xxxx...xxxx
[OK] ...
```

```
=====
Summary: 28 found / 0 missing
=====
```

All registry values are configured.

すべての項目が [OK] であり、Summary で missing が 0 であればレジストリ設定は正常です。[-] が表示される項目がある場合は、インストールスクリプトを再実行してください。

### 4.3 ブラウザ上での拡張機能表示確認

ブラウザがポリシーを再読み込みした後、拡張機能がインストールされていることを確認します。

- Chrome : アドレスバーに `chrome://extensions` を入力
- Edge : アドレスバーに `edge://extensions` を入力

Admina 拡張機能が一覧に表示され、有効になっていることを確認してください。強制インストールされた拡張機能は「組織によってインストール済み」と表示される場合があります。

### 4.4 パラメーター受け渡しの確認

#### Chrome の場合 (chrome://policy)

Chrome ではポリシー画面から拡張機能に渡されたパラメーターを直接確認できます。

- アドレスバーに `chrome://policy` を入力
- 「ポリシーを再読み込み」ボタンをクリック
- Admina 拡張機能のポリシーとして ApiKey、CreatedDate、OrganizationID、UserEmail、UserPc が表示されることを確認

#### Edge の場合 (Diag データ)

Edge では `edge://policy` 画面で拡張機能のパラメーターを確認することができません。Edge の場合は Admina の Diag データから確認してください。(当社に送付いただければ中身を拝見いたします)

Diag データの確認方法については以下を参照してください：

## [Diagデータの確認方法 - Admina Support](#)

すべての値が正しく確認できれば、セットアップは完了です。  
最小5分から最大30分程度でデータの送信が開始されます。

## 第5章 疎通確認・データ確認

### 5.1 疎通確認

これまでのパタメーターが設定されていて、反映も確認できている場合は最大30分程度でデータがサーバーに届きます。

インテグレーション > イベントログ に、ソースが“Chrome”“Edge”が登場します。

サービス名	イベント名	発生日時	メール / UID	ドメイン	ソース	発生ID
Google Workspace	Activity	2025/02/19 13:45		docs.google.com	Chrome Extension	
Google Workspace	Activity	2025/02/19 13:26		meet.google.com	Chrome Extension	
HubSpot	Activity	2025/02/19 13:36		app.hubspot.com	Chrome Extension	
GitHub	Activity	2025/02/19 13:34		github.com	Chrome Extension	
Google Workspace	Activity	2025/02/19 13:34		mail.google.com	Chrome Extension	
Google Workspace	Activity	2025/02/19 13:33		calendar.google.com	Chrome Extension	
Digital Marketing Center	Activity	2025/02/19 13:33		myapplications.microsoft.com	Chrome Extension	
Amazon	Activity	2025/02/19 13:33		ap-northeast-1.console.aws.amazon.com	Chrome Extension	

### 5.2 不通の場合の調査

拡張機能のアイコン > アイコンを押すと設定ページが開きます。

こちらになにも警告がでていなければ送信されているはずです。

もし警告が出ている場合は、こちらのスクリーンショットと分析用のDiagデータを添えてチャットからお問い合わせください。

[Diagデータの確認方法 - Admina Support](#)



## 5.3 ネットワーク調査

お客様の環境によってはネットワークのアウトバウンド通信に制限がかかっているケースがございます。通信環境についてご確認ください。

通信先：

```
api.itmc.i.moneyforward.com:443 (データ送信先/APIアクセス)
```

```
itmc.i.moneyforward.com:443 (Webアクセス)
```

Powershellを使えば通信状況が確認できます。成功時は1秒以内くらいに応答があります。

Waitingが長い場合、経路上の何処かで詰まっている可能性があります。

```
Test-NetConnection -ComputerName api.itmc.i.moneyforward.com -Port 443
```

```
ComputerName      : api.itmc.i.moneyforward.com
```

```
RemoteAddress     : xxx.xxx.xxx.xxx
```

```
RemotePort        : 443
```

```
InterfaceAlias    : イーサネット 9
```

```
SourceAddress     : xxx.xxx.xxx.xxx
```

```
TcpTestSucceeded : True
```